

視覚障害者の安全な鉄道利用を求めて

交通権学会関東部会 研究会

2017年3月18日(土) 13:30~17:00 予約不要・無料 会員外参加歓迎

国土舘大学世田谷校舎 6号館1F 6103教室

東急世田谷線 松陰神社前

○盲導犬を伴った視覚障害者がホームから転落する事故が報道されました。近年、障害者の鉄道利用への理解は以前よりは改善していますが、今も右写真のような誘導ブロックの設置をみかけます。このような表示は現実的でしょうか。

○鉄道会社は、危険な場面を見かけたら「盲導犬を連れた方、止まって下さい」と声をかけるようにと利用者に呼びかけを始めましたが、転落はほんの数歩のタイミングで発生します。現実にそんな声かけが可能でしょうか。

○いまラッシュ時でさえホームに駅員の姿は希です。利用者の行動を求める前になぜホームに安全要員を配置しないのでしょうか。

○また意図的な人身事故の防止は難題ですが、一旦発生すると利用者や鉄道関係者にも負担が及びます。JR東日本の安全研究所は駅員の目が届かない条件で人身事故が発生しやすいと分析して報告をしています。

○長年にわたり視覚障害者が安全に鉄道を利用できる権利を主張し、点検活動や国土交通省・鉄道事業者等とも粘り強く交渉を続けてこられた山城完治さん(東京視覚障害者協会)と、現場で勤務する小黑裕さん(国労高崎地本運輸協議会議長)のお話を聞きながら視覚障害者の安全な鉄道利用を考えます。



問合せ
交通権学会 会長 上岡直見
sustran-japan@nifty.ne.jp

報告

森すぐるさん(交通権学会理事/社会構想研究所代表)

「視覚障害者の交通権に関する活動通史」

山城完治さん(東京視覚障害者協会)

「視覚障害者の安全な鉄道利用をめざす活動～当事者の立場から」

小黑裕さん(国労高崎地本運輸協議会議長)

「駅における利用者の安全対策と問題点」